

◎組合訪問記「コマツユニオン北陸支部」

組合員の“安心の源”が組合の役割

Q1 コマツユニオン北陸支部の成り立ちと組合員数、役員体制などについて。

本田 コマツユニオンは昭和21年（1946年）5月に結成され、昨年結成60周年を迎えました。現在、東京のコマツ本社にコマツユニオン本部があり、北陸支部は石川地区3工場（粟津、小松、金沢）の組合員で構成されています。成り立ちとしては、

昭和21年▼粟津支部と小松支部がほぼ同時期に立ち上がりました。

平成5年▼コマツユニオン単組としての組織改革があり、近隣支部であった粟津・小松の2支部が統合され、名称も「石川支部」となりました。

平成12年▼単組の組織改革は更に進み、富山支部（当社の氷見工場・富山県氷見市）を富山ブロックに名称変更し、石川支部と統合して「北陸支部」に名称を改めました。

平成14年▼コマツグループの企業経営強化を狙いとした経営構造改革により、氷見工場（製造部門）が分社化されることになり、「富山ブロック」が北陸支部から分離して単組となりました。この際「石川支部」に名称を戻すことも検討しましたが、名称を変えて間も

ないこともあり、現在も「北陸支部」の名称を使っています。

現在北陸支部の組織人員は約2000人で、組合役員は委員長・副委員長・書記長各1名と書記3名、会計監査2名と執行委員12名および支部代議員77名で構成しています。

支部としては、最低月1回の支部執行委員会と支部委員会を開催しています。また、支部執行委員会が中心となり、職場委員会を必ず月に一回は開催し、職場における課題などについて話し合っています。

Q2 コマツユニオン北陸支部の主な活動の特徴について。

本田 組合の主催する主なイベントとして、1月のスノーフェスタ、5月のウォークラリー、7月頃にバスツアー（昨年は野球観戦ツアーを企画）を実施しており、いずれも家族参加型のイベントで好評を得ています。労使共催のイベントとしては、8月にはサマーフェスタ（工場開放デー）、平成17年の10月に運動会を復活（16年振り）させ、昼夜2勤のシフト勤務の中で、従業員の半数が参加しました。（今年も開催予定）

【季節での主な組合イベント】

●コマツユニオン北陸支部／執行委員長
ほんだ・しげと

本田茂人

《会社歴》91年、小松製作所入社。92年10月、製造部に配属、スタッフ業務に従事。00年10月、組合専従で休職中。《組合専従歴》01年～02年、北陸支部書記長。03年～06年北陸支部執行委員長。07年、同上。現在に至る（支部執行委員長3期目）（組合年度で表示、10月、役員改選）。



◎春 ウォークラリー（近年は、動物園開放デーなども設定）

◎夏 バスツアー、サマーフェスタ

◎秋 *石川地区運動会

◎冬 スノーフェスタ

（*印は、会社イベントであるが、ユニオンとして主旨に賛同し協力）

Q3 コマツユニオン北陸支部の主な活動の特徴について説明ください。

本田 コマツユニオンは2006年に結成60周年を迎えましたが、2005年に組合員の意識調査を実施した結果、組合員のユニオンに対する意識としては「必要性は認めているものの、積極的に関わり合いたいとは思っ

スノーフェスタ



運動会



ウォークラリー



コマツユニオン北陸支部

組合事務所風景



ていない。また、受け身の姿勢が強く、お客
様化が進行している「傾向があることが判明
しました。」

また、組合員は「能力開発支援」、「安全衛
生に関する取り組み」、「人とのつながりに関
する取り組み」などに関心が高いことが判明
しました。

この意識調査結果を受け、コマツユニオン
では2006年（結成60周年）を新たな10年
の運動の出発点ととらえ、活動大方針を決定
しました。

（一）内はキーワード

(1) 組合員・職場・組織のトータル・セーフテ
ィ（安心・安全）

(2) 組合員・職
場・組織のモチ
ベーション・ア
ップ（やりが
い・働きがい）

(3) 組合員・職
場・組織のグル
ープ・ワイド
（連携・連帯）

具体的には、
老後設計支援や
能力開発支援な
どの「教育支援」
や、安全衛生に
関するセミナー
の実施をはじめ、
組合員の関心事
項について今後
10年計画で積極的

な運動に展開していく予定です。

Q4 社会貢献活動の面で取り組まれていること
は？

本田 地域の清掃活動や福祉施設訪問など
のボランティア活動を継続的に行っていま
す。また一時金支給時の募金活動も行ってお
り、福祉施設などに寄贈したりしています。
ボランティア活動は、青年女性部をはじめ、
様々な層で自主的に行っています。

Q5 どのようチャレンジしているかと
されているか？

本田 総実労働時間の短縮、福利厚生 of 充
実、人材の育成・教育の充実の3点に力を入
れています。その中でも、特に力を注いでい
る事は、ワークライフバランスの観点からの
「総実労働時間の短縮」と、災害のない職場
作りを目指した「安全衛生の対策」です。

「総実労働時間の短縮」をきちんとやって
いかないと、組合員の皆さんの真のゆとり・
豊かさを実現できないことになるからです。
また、安全で安心して働き続けることができ
る職場づくりという面で、この2本を柱に取
り組んでいきたいと考えています。
総実労働時間の短縮への取り組みは具体的
にどう進めていくのか？

本田 弊社の場合、有給休暇の消化率があ
Q6 まり高くないという実態があります。
所定労働時間が1896時間、時間外労働
時間が年間平均約400時間程度あるため、
実労働時間は約2300時間になっていま
す。有給休暇取得日数が平均10〜11日です
で、差し引いても総実労働時間は約2200

時間になっています。

総労働時間が少し長すぎることは労使で認
識しており、3年間後には「総実労働時間の
10%低減」を目標に、今年度から活動を始め
たところです。これは操業度を平準化させ、
時間外労働時間を安定化させないと実現でき
ない数字です。

ここ5〜6年で、北陸支部での生産量が3
〜4倍に拡大しているため、時間外もその分
多くなっています。「投資による生産能力向
上」、「採用人員増によるマンパワーの増加」
を実施している最中であるため、時短の推進
は緒に付いたばかりです。良い面でもあり強
い面でもありますが、北陸支部の組合員は粘
り強く、黙々と働いてくれています。ものづ
くりに合った稟民性があり、ものづくりに喜
びを感じている人も多いわけです。そういう
人に支えられている面がありますが、いつま
でもこのような長時間労働を続けていくわけ
にはいきません。

本田委員長 にとっての労働組合の役割とは
何ですか？

本田 組合員の皆さんの一番後ろで、皆さ
Q7 んが困らないように、どんとかまえて
いることでしょうか。組合員の皆さんが生き
活きと頑張れるように、いつも一番後ろで、
何かあったらしっかり受け止めてあげられ
る、そんな「安心の源」が組合の役割だと思
います。

(文責＝編集部)